

『ICT・ロボット技術は農業・農作業をどこまで変えるか』

2013 農業機械化フォーラム

一般社団法人日本農業機械化協会

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構

開催要領

1. 趣旨:

ICT・ロボット技術等は、農業生産現場へどのような変化をもたらすのか。

本フォーラム・研究会においては、トラクタ等の農業機械と圃場生産環境に着目し、ロボット、各種センシング技術、生産情報管理システム等の進展がどのように農業・農作業の発展につながり、それが農業生産性の向上に影響を与えるかについて幅広く話題提供を行う。パネルディスカッションでは、ICT・ロボット技術等を利用した農業機械化の今後の方向について、将来と現在の両方の視点から議論を行う。

2. 開催日時:平成25年12月11日(水) 10:30-16:30

3. 開催場所:(独)農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター(生研センターと略) (さいたま市北区日進町1-40-2 以下HPの「アクセス」からご確認ください) (<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/introduction/access.html>)

4. 講演内容・スケジュール

1) 主催者及び来賓の挨拶(10:30~10:50)

(1) 日本農業機械化協会 会長 染 英昭

(2) 農研機構理事(機械化促進担当) 月山 光夫

(3) 農林水産省(予定)

2) 基調講演「ロボットトラクタ、ICT等先端技術を用いた新たな農業機械化体系」

(10:50~12:00)

北海道大学 野口 伸氏

3) 昼食(12:00~12:30)

ICT関連技術パネル等及び生研センター開発機械の展示(12:40~13:25)

4) 講演(13:30~15:20)

(1) 農作業ロボット研究の現状と未来(13:30~14:00)

農研機構・中央研 長坂善禎氏

(2) 農業生産管理システムにおけるICT技術の現状と未来(仮)(14:00~14:30)

富士通(株) 山崎富弘氏

(3) 農業生産のための自動化技術の導入と今後への期待(14:30~15:00)

六ツ美ライスセンター(愛知県岡崎市) 高木直樹氏

(4) 生研センターにおける農作業ロボット研究(仮)(15:00~15:20)

農研機構・生研センター 小林 研氏

5) 休憩(15:20～15:35)

6) パネルディスカッション(15:35～16:30)

パネリスト：講演者及び関係者（座長：北海道大学 野口 伸氏）

7) 閉 会(16:30)

5. 後援：農林水産省

6. 協賛：(一社)日本農業機械工業会、全国農業協同組合連合会、全国農業機械商業協同組合連合会、
農業食料工学会、日本農作業学会、全国農業機械化研修連絡協議会、全国農業機械士協議会、
(公社)日本農業法人協会（順不同）

7. 参集範囲

農業生産者・経営者、農業機械製造・流通業者、行政・普及機関関係者等
農研機構及び研究機関関係者

8・申し込み方法

別紙申込書にご記入の上、12月5日(木)までに下記へお申し込みください。

申込先：一般社団法人日本農業機械化協会（〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16）

E-mail：kikaika-info@nitinoki.or.jp Fax：03-3297-5639

注) 会場定数を超える場合は申込順とし、参加できない方にはその旨ご連絡いたしますのでご理解願
います。

9. 事務局：(お問い合わせ等は以下にお願いいたします)

日本農業機械化協会：富樫辰志 Tel：03-3297-5640 FAX:03-3297-5639

農研機構・中央農業総合研究センター・作業技術研究領域：細川 寿 Tel：029-838-8824

別 紙

2013 農業機械化フォーラム参加申込書

機関団体会社名： _____

ご住所： _____

ご担当者氏名・E-mail： _____

TEL _____ FAX _____

ご氏名	所属・職名	弁当 (○×)

申込み期日：12月5日（木）までに FAX (03-3297-5639) にてお申し込み下さい。

注1) 昼食（弁当）の申し込みについては右欄に○×を記入願います（1,000円の予定）。
なお、近くに食堂は多くはありませんのでご留意願います。

注2) 参加申し込みされた方には、こちらから参加登録証を送付いたします。もし、登録証が6日（金）までに送付されない場合はご連絡下さい。